

課題名：Mixed Reality 技術を活用した 認知・身体機能の経過を見える化する訓練支援機器の開発

代表機関／代表者：株式会社テクリコ／竹本直也

分担機関：学校法人関西医科大学

研究期間：令和7年9月～令和10年3月

研究開発目的

- 介護施設において個別性の高い機能訓練等のサービスの質の担保が求められている一方、施設職員の業務負担の多さも問題視されている。
- 現場に余裕がなく、ICTシステムの導入・定着にも課題がある。
- 本研究開発では、介護サービスの質の向上と業務負担軽減を同時に実現し、現場に定着するシステムの開発を目指す。

取り組み

- 介護施設において個別性の高い機能訓練を実現するために、MixedReality技術を活用して身体機能測定や多彩なトレーニングの提供を可能とするシステムを開発する。
- 測定や課題難易度の調整、経過の視覚化はシステム内で自動で行えるようにプログラム開発を行う。
- 種々の自動化により、介護職員の大幅な業務負担軽減を実現することで、現場に定着するシステムを目指す。
- 上記システムを複数の介護現場で運用し、有用性を検証する。

期待される成果

- 実証用システムの完成
- システムの実証研究を複数施設で実施
- システムの有効性の検証と改善点の明確化

運用場面イメージ



- 利用者はヘッドマウントディスプレイ（HMD）を装着することで、自動で個別性の高い訓練・評価を開始できる。
- 結果や経過は自動でデータが収集・蓄積・視覚化される。



介護サービスの質の向上と、施設職員の業務負担軽減を同時に実現させることで、現場に定着するシステムを目指す。